

Q

シルバーエスポーツ、これからの取組は

A

活き活きシニア世代応援事業として実施していく



はち す よしのり
八 須 由 憲



映像は
こちらから

Q シルバーエスポーツ講座が実施されたが、どのような内容なのか。

A スマートフォンの基本操作からアプリのインストール、Wi-Fiへの接続方法、通信料金や広告が表示された時の対処方法についての講習後、対戦ゲームを行った。

Q eスポーツ体験をきっかけとして、高齢者のICT利活用の推進、認知症予防や地域での交流の機会が増える等の効果が期待される。今後も講座を開催する予定はあるのか。

A 高齢者ができる簡単・単純で楽しめるものを実施していく。

●認知症施策について

Q 2040年に65歳以上の認知症および軽度認知障害(MCI)の患者は、3人に1人にのぼる、という推測が国から発表された。認知症の予防や認知症の人が安心して暮らせ

るよう家族や地域で支えるためには

認知症・軽度認知障害についての正しい知識と理解を深めることが必要である。認知症と共生する社会の実現に向けた施策は。

A 認知症の症状、認知症の人と接するときの心構えや、認知症介護をしている人の気持ちなどを学ぶ「認知症サポーター養成講座」を開催している。認知症の概要や早期発見のためのチェックリスト、相談窓口、公的なサービス等を掲載した「認知症あんしんガイド」を作成し、市のホームページでの掲載や窓口で配布している。活用していただきたい。



Q

制服バンクを市として取り入れる考えはあるか

A

すべての中学校に広めていけるように働きかける



こ ばやし まこと
小 林 真



映像は
こちらから

Q 学用品「モン」(共有)化は通学軽量化にも効果があるのでは。

A どんな学用品のモン化が望ましいか学校の状況等を確認する。

●メガソーラー地域条例

Q 令和4年8月、市内にメガソーラーは14基あった。現在の事業用太陽光発電設備の設置状況は。

A 現在も14基で増減なし。メガソーラー以外も含めた市内全体の事業用太陽光発電設備は、1,369基、発電容量9万5,964KWで伸びは著しく鈍化している。

Q メガソーラー設置を規制する条例を制定する考えはないか。

A 太陽光発電施設の設置に関するガイドラインに基づいて指導・助言を行ってきた。これまで大きなトラブルもなく、国の法改正で事業規律の強化が図られたことから、引き続き

き国の法律と市ガイドラインの運用で近隣住民の安全や多様な自然環境を持つ景観への配慮を図る。

●中央地区区画整理

Q 計画決定までのプロセスは。

A 平成9年度に施行区域を都市計画決定し、10年度に、設計内容や施行期間、資金計画などの事業計画を定めた。

Q 26年経過で市民の意見が変わってきた。計画見直しの考えはないか。

A 今はスピードを落とさず進める時。しかし今後、行き詰まる時が来たら、新たな時代の感覚でいっしょに考えたい。



カラフルで楽しい「さんすうせつと」は1人1セット

Q

深谷市誕生20周年になるが記念式典を挙行政したら

A

市政のPRの場として広く活用を図っていく



たか ひろき
高 田 博 之



映像は
こちらから

Q 旧深谷市では10周年記念式典、20周年記念式典等が実施されてきた。今後の20周年記念事業は、栄一翁関連事業と関連付けて実施したいと考えている。

Q 市勢要覧を作成する考えはあるか。

A 今年中に、広報ふかやにおいて深谷市誕生20周年の特集を予定している。特別号としてカラー印刷に変えたり、未来を展望する内容とし、皆さんに読んでいただけるよう努めていく。

●深谷市をもっとアピールすべき

Q 「深谷」だと思える巨大オブジェを国道の端などに設置できないか。

A 「栄一翁」と「ふっかつちゃん」が描かれた埼玉ガス株式会社ガスタンクがある。3月8日には道の駅おかへに5mを超える「ねぎ」のオブジェ

が完成したばかりである。

Q 平面での大きな看板ではありふれていて見過ごしてしまう。立体的な、そして大きなオブジェは全国各地に設置されている。淡路島のためねぎのオブジェ、またカニのつめの巨大オブジェ、ブロッコリーのオブジェ等々いっぱいある。深谷市でも何とか調整できないか。

A 国道17号バイパスの4車線化が計画されているが、余剰地等があれば、調査研究していく。



あわ市営農経済センターにある巨大オブジェ (JA徳島県提供)

『議会改革の取組』

角田議長から議会改革に関する諮問を受け、議長を除く全議員で構成する議会改革委員会(委員長に今井慶一郎委員、副委員長に柿澤祐介委員)を令和6年6月から令和7年1月まで、計8回開催しました。

○諮問事項

- 1 議員定数と議員報酬、その他待遇(厚生年金加入の是非や費用弁償)、公務活動費の使途基準見直しに関すること
- 2 常任委員会の生中継・録画配信、議会報告会の開催に関すること

○検討経緯

議長から諮問の趣旨・経緯を委員に説明し、各諮問事項についてグループトークなど実施し、議論を深めました。

○検討結果

- 1 議員定数は、過去2度にわたり定数



グループトークの様子



今井委員長から角田議長へ答申

- 2 議員報酬は、平成7年以降見直しがないことから、特別報酬等審議会を毎年度開催し、その適正額を検証すべきである。なお、適正額の検証にあたる際は、市職員の給与改定率を参考とすることを申し述べる。
- 3 厚生年金加入の是非、費用弁償及び公務活動費の使途基準見直しは、結論がでないことにより、議論不調とする。
- 4 常任委員会の生中継・録画配信は、議場で行う予算特別委員会及び決算特別委員会の配信を実施し、その効果を検証したうえで判断されたい。
- 5 議会報告会の開催は、各常任委員会が既に諸団体と意見交換会を実施していることから、行わないこととする。